



# 名古屋観世会 定例公演能

平成30年

11月11日【日】

12時30分開演  
(11時30分開場)

能

葵

上・久田勘鷗

梓之出

能

頼政・梅若実

狂言

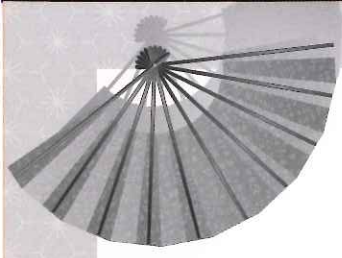
狐塚・佐藤友彦

お問い合わせ

名古屋観世会事務所(久田勘鷗方)

〒451-0041 名古屋市西区幅下2-10-9  
TEL&FAX(052)446-6025





番組

頼政

前子爵 後子爵二位頼政  
梅若 実  
高安勝久  
福元正樹  
井上松次郎  
河村眞之介  
後藤嘉津幸  
藤田六郎兵衛

狐塚

太郎冠者 佐藤友彦  
主人 野村又三郎  
次郎冠者 鹿島俊裕  
後見 今枝郁雄

葵

ツレ巫女 シテ大森御息所  
山中雅志  
久田勲鷗  
飯富雅介  
河村絵一郎  
船戸昭弘  
鬼頭義命  
大鼓 小鼓 太鼓 笛

附祝言

後見 松山幸親  
地謡 八神孝充  
伊藤裕貴  
吉沢 旭  
坂井音雅  
清沢一政  
観世喜正  
久保信一朗

(四時頃終了予定)

◆頼政(よりまね)

【あらすじ】諸国一見の旅僧が、京都から奈良へ向う途中、宇治の里に着き、佳勝の地の景色に見とれ、この土地の人の来るのを待ちます。そこへ一人の老人が来合わせたので、僧は名所を尋ねます。老人は、旅僧の求めに応じて、あたりの名所を教え、ついで平等院へと誘います。そして、ここは頼政が武運つたなく戦死したゆかりの地であると教えます。僧が、合掌して回向をすると、老人は喜び、丁度今日がその命日に当たり、実は自分こそ頼政の幽霊であると名乗って消え失せます。  
〔中入〕そのあと、宇治の里人がやってくるので、旅僧は、彼ら頼政の挙兵の理由や宇治橋の合戦の模様を聞きます。僧は、そぞろ哀れをもよおし、頼政のために誂経し、仮寝をします。やがて僧の夢の中に、法体の身に甲冑を帯びた老武将が現れます。僧は頼政と認め、法華経を誂誂しているので、成仏疑いがないことを伝えます。頼政は、治承四年夏、拳兵した時の様から説き起し、宇治に陣を構えた模様を語り、そして宇治川を挟んでの決戦、平家方三百余騎が川を渡ってくる様子、踏み留まつての防戦と語りつぎます。しかし敗色濃しと見た頼政は、平等院の芝の上に扇を打ち敷き、「埋れ木の、花咲くこともなかりしに、身のなる果は哀れなりけり」の辞世を詠じて自害します。その跡が、世にいう扇の芝であると述べ、回向を乞うて、草の陰に消えてゆきます。

◆葵上(あおいのうへ)

【あらすじ】左大臣の御息女で、光源氏の北の方である葵上が物怪に悩まされ寝込んでいたので、貴僧高僧を召して加持祈禱を行ったり、さまざまな医療をほどこしてみたら、いつかその効き目がない。そこで朱雀院に仕える廷臣が、梓の弓によつて亡霊を呼び寄せる呪法の上手である照日ノ巫女に命じて、怨霊の正体を占わせます。すると、梓の弓の音にひかれて、源氏の愛人であった六条ノ御息所の生霊が破れ車にのつて現れます。そして、源氏の愛を失った恨みを綿々と述べ、葵上の枕元に立ち寄り、責めさいなみ、幽界へ連れ去らうとします。  
〔中入〕臣下は、ただならぬ様子に、下人と呼び、横川ノ小聖という行者のもとへ走らせます。急ぎ駆けつけた行者が、早速に祈禱を始めると、御息所の怨霊が、鬼女の姿で再び現れ、行者を追い返そうとして激しく争いますが、その法力には敵しえず、ついに祈り伏せられ、悪鬼さながらの怨霊も心を柔らげて成仏します。

能楽手帖 権藤芳一より



平成31年度日程  
名古屋観世会  
定例公演  
2月10日(日) | 6月9日(日)  
11月10日(日)  
※日程変更の場合があります。  
曲目・出演者は未定。

◆御案内  
 1、都合に依り曲目・出演者に変更があるかも知れませんが予めご了承下さい。  
 2、演能中はお静かに又演能中のお出入りはなるべく遠慮下さい。  
 3、録音・撮影等はかたくお断り致します。  
 4、携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。  
 5、幼児のご入場は勝手乍らお断り致します。  
 6、演能終了後の拍手はシテが幕に入ります迄御遠慮頂ければ幸甚に存じます。

名古屋観世会

名古屋能楽堂  
〒460-0001 名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号

TEL.052-231-0088

FAX.052-231-8756  
http://www.bunka758.or.jp/